

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年 3月
24012 札幌市立北白石小学校

1 本年度の重点目標

“ひびきあい”のあふれる学校づくり～自律性と協同性を兼ね備えた子どもの育成～

2 本年度の経営方針

1. 「打てば響く子」の育成
2. 全職員での「カリキュラムマネジメント」
3. 一人一人の背景を尊重し組織で対応
4. 見通しをもって繋いでいく組織
5. 実践力の向上（日々の授業・生活の充実）
6. 常に気に留めておきたい心構え～学習規律～
7. 「自己承認」から「相互承認」へ

3 自己評価結果

【達成状況】 A:十分達成されている B:達成されている C:改善の余地がある D:再検討が必要である

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果・改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
	<人間尊重の教育> 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり 不登校やいじめの未然防止、早期発見、対応について組織的に取り組むことができたか。（外部機関との連携、相談支援パートナーの活用、教師間連携）	A	・今年度も新1年生児童が入学してきた。集団の中になかなか馴染めない児童においても、その子の子に合った学びの場所を探るべく様々な関係機関と連携してきた。更に成長と共に学びの場を探り始める児童においても保護者と面談を重ね、家庭と連携を図ってきた。 ・「悩みやいじめに関するアンケート」を7月・11月・3月の年3回実施している。また、今年度から11月の「いじめ対策委員会」では、SC、SSWの先生をお招きし、話し合いの内容についても、教職員と吟味し合い、交流してきた。「いじめアセスメントシート」への取組も学校全体で共通理解を図り、進めてきた。これにより、子どもたちの悩みや困り感を迅速に把握し、保護者との連携を密にしながら担任をはじめ、チームで組織的に対応することができた。 ・今年度は不登校傾向の児童対応を相談支援パートナーさんにいただいた。その結果、登校日数も増え、児童の生活習慣の安定にもつながった。 ・次年度も特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや相談支援パートナー、家庭児童相談室などの関係機関と連携を図るとともに、必要に応じて外部機関の協力を仰ぎながら、子ども理解をより一層深め個に応じたきめ細かな対応を行っていく。	A	A
	<「学ぶ力」の育成> 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力	B	・どのクラスも学年末に向けて、落ち着いて学習する姿が見られてきた。 ・全国学力テストでは、平均点を上回ることができず、来年度は、家庭での学習習慣、基礎基本的な学力定着に向け取り組んでいく。 ・学習の準備、規範意識、基本的な生活習慣も学力に影響してくるという意識で児童へ関わっていく。	B	A
	<「豊かな心」の育成> 豊かな心を育み、自他を尊重し、命を大切に指導がされていたか。	B	・本校の特色ある教育の一つである縦割り活動「七色活動」が、高学年が「下の学年がわかるように」という思いをもって企画を考えたり、学習発表会のブロック内交流を通して相手意識の向上につながり成長が見られた。 ・来年度は「豊かな心」の育成に重点を置き、家庭との連絡、関係機関との連携を図り、教職員や友達同士の挨拶、言葉遣いなどの関わり方への指導を強化していく。 ・友達とのコミュニケーションの図り方や学校内外の社会的規範や育てるために道徳科の充実にも努める。小中連携した教育の一環として、中学校とも授業や研修の交流を図っていく。	B	A
	<「健やかな体」の育成> 子どもが健康や体力に関心をもち、進んで運動を楽しむよう、体力向上・健康促進の取組がされていたか。	A	・休み時間にも体を動かすことができる「跳び箱」週間や「マット運動」週間等の時間の設定、「ドッジボールコート」の作成などの場の提供、年間を通し全校で継続した「なわとび運動」の機会など、「時間・空間・仲間」の「三間(さんま)」を創出することで子どもの体力向上を図ることができた。 ・全校体力テスト週間や各自の実態把握をし、子どもの育ちを語る会や研修資料、教材づくりを通し、より運動の機会の充実を図ることができた。 ・今年度から3階多目的室で新体力テストの種目である、「垂直飛び」「立ち幅跳び」「長身体前屈」「反復横跳び」にいつも挑戦できる環境をつくるなど子どもの体力向上に努めた。 ・次年度は、「なわとびカード」の改善を図り、意欲の向上と持続に取り組む。	A	A
	<「一貫性・連続性のある教育」> ・社会に開かれた教育や9年間の系統性・連続性のある教育がなされていたか。	B	・中学校の生徒会活動の意義を小学校の全校朝会で生徒会長を招いて話してもらおうなど、生徒会と小学校ともつながりがなされてきている。白石区のおやじの会のキャラクターと小中学校で同時期・場所で挨拶運動が実現できた。 ・PTAサポーター活動や運動会ボランティア、花壇ボランティア活動などPTA活動が定着してきた。また、パートナー校と地域との「雪フェス」開催2年目など地域と学校が連携する場も充実し、将来的なコミュニティースクールにつながるものが見えてきた。 ・学校行事の様子やイベントをホームページを通して頻りに情報発信することができた。現在は「すぐる」を通して各家庭に個人レベルでもお便りなどを送信できる環境も構築されたので、今後も有効活用していく。	B	B
	学校関係者評価委員による意見		指導方法を工夫し、子どもたちが課題をしっかりとつかみ学習に取り組める授業の様子が伺える。 ・「通知表をやめた小学校」があると聞いている。今後は、通知表の在り方も探る必要があるであろう。 ・教員が入れ替わる中、「管理職は教職員を信頼し、教職員は子どもたちを信頼し、保護者・地域は学校を応援する相互関係をつくる。」ことを大切に取り組まれており、当校において、1年生と6年生が教室を同じフロアにしているのを見て、子どもファーストな学校改革をした内容でとてもよいと思いました。		
生活指導	<挨拶・言葉遣い> 時と場に応じた、挨拶や言葉遣いができるよう、適切な指導がされていたか。	B	・気持ちの伝わるあいさつができることは、子どもたちの学力・運動能力・友達関係・学級経営の全てに関わる、基礎的でありながら、教育活動の中心であると同時に、社会に出てからも一生役に立つ能力であると考え、全職員で基礎的な部分から地道に指導を継続してきた。 ・「挨拶運動」や「あいさつクイズラリー」といった児童委員会活動や区Pやおやじの会協力のもと「しるっぴー」があいさつ運動に参加してくれるなどの取組を通して挨拶への意識の向上につながった。 ・次年度は「あいさつは『だ(だれにでも)』『い(いい声で)』『じ(自分から)』」を校内全体でより意識していけるよう、掲示方法の工夫や指導の工夫を継続していく。また、「小中一貫」の取組として北白石中との連携も継続していく。	B	A
	<校内外の生活ルール> 校内外の生活ルールを身に付け実践する指導がされていたか。	B	・登下校時に関して、地域の方々から有意義な情報をいただいたことにより具体的な資料をもとに指導に生かすことができた。 ・校内生活において、チャイムを鳴らすようにするなど、職員間での話し合いをもとにしながら時間内にしなやかに生活する意識を話し合ってきたが、朝の登校時刻については、時間を守る意識がまだ十分ではない。家庭との連携を今後も図っていく。 ・放課後生活のルールについて、学校と家庭が連携して指導していけるよう、学校ホームページや「すぐる」を活用して学校から家庭への情報発信をさらに充実していく。	B	A
	学校関係者評価委員による意見		・本地域主催に実施された「雪フェス」が大成功に終わることができた。これからも日常的に挨拶ができる子どもを育てるためには、地域との交流などで心のふれあいができる場が必要と考える。（地域の子ども会への参加） ・地域・町内会や公園をきれいにする意識を付けてほしいと思う。今、町内会では、防犯カメラを設置し、作動するところが増えてきている。 ・次年度は、基本的な生活習慣・規範意識を教育活動の根幹として取り組んでいきたい。		
危機管理	<防災・防犯・交通安全> 子どもの防災・防犯意識、交通安全への意識を高める教育活動がされていたか。子どもの生命の安全を確保するため、学校の危機管理体制の確立がされていたか。	A	・交通安全教室や教職員による見守り指導、スクールガードの方々の協力を通して、児童の交通安全意識を高めることができた。 ・定期的に避難訓練を実施することで児童・教職員の防災・防犯意識を高め、全員の大切な命を守るために必要な意識、行動を身につけることができた。 ・次年度も、地域の防犯決起大会や交通安全運動への参加により、学校間、学校と地域間が連携して、不測の事態が起きてでも迅速に対応できるように備えていく。また、小中合同の避難訓練の実施や水害に対する指導動画の刷新に取り組み、より実効性のある安全教育の充実にも努める。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		・地域、学校との連携で防災知識の習得と協調性を養う訓練が必要と思われる。 ・雪が解けると公園の周り(あかつき公園)で自転車競走が時折見られます。自動車と衝突するのが心配です。 ・今年度も保護者引取訓練を実施しており、次年度も危機管理に力を入れてほしい。		